

三重県議会議員の選挙区及び定数の見直し(中間案)に対する
意見募集(パブリックコメント)結果

意見募集期間:平成26年1月14日(火)から平成26年2月13日(木)

	市町名	ご意見	分類項目														
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
4	東員町	<p>県民の方を向いていない結論で、とても遺憾です。</p> <p>議会では、平成13年に定数の議論を行い、平成17年前後に行われる市町村合併を見て、その後、選挙区と定数削減について、再度協議するという条件付きで、平成15年の県議選については4減の定数51という決着を見ました。これは、三重県議会としての約束として、申し送りされたはずですし、当然、県民との約束であったはずで。</p> <p>しかし、その後、2度の県議選が行われたにもかかわらず、それからの三重県議会は、平成13年時の約束事を、全く無視するように改定は行われず、その決意さえ全く無いように感じられます。今回の議論は、そういう意味で、興味深く注目していましたが、マスコミ報道だけの情報で申し訳ありませんが、三重県議会としての大義、哲学が感じ取れませんでした。そして、出された結論は、結局先送りで、議員が議員のことしか考えていない、県民は全く眼中になしということになりました。</p> <p>なぜ、定数45と定めた結論が、平成27年の選挙が終わってからでないと実行できないのか、不思議でなりません。絶対に、絶対に、絶対に、来年の選挙から施行すべきです。そうでなければ、私は、三重県議会議員のOBとして恥ずかしく、残念でならないし、1県民としてとても看過できることではありません。</p> <p>平成22年の国勢調査では、三重県人口は185万人、岐阜県人口は208万人であり、議員定数はそれぞれ、三重県51、岐阜県46となっており、三重県の51はどう考えても説明のつく数字ではありません。是非、今回の考えを改めていただき、県民に顔を向けた議会となっていくことを望みます。</p>										○					
5	鳥羽市	<p>今回の定数見直しにおいて、鳥羽市と志摩市で3から2に減らす案が出ております。もともと鳥羽市は町村合併のおりから、離島がある等の理由から合併に至ることはなく、独自の市政運営に進んでいると認識しております。つまり鳥羽市と志摩市ではなかなか理解されない事情があり、もしすべての議員が志摩市で埋められた場合、鳥羽市はさらに孤立、陸の孤島化してしまうでしょう。他の町村とは違う事情の理解できる地域密着型の議員の必要性は大きいのです。よって鳥羽市1、志摩市1なら理解できますが、今の見直し案には反対します。</p>				○											
6	鳥羽市	<p>鳥羽市と志摩市の選挙区が合区になった時、議員定数が2名となった場合、志摩市は鳥羽市より人口が3倍に近い為、志摩市から2名の議員が上った場合、鳥羽市は離島が多く災害防止災害復興、観光、漁業、工業など県とのパイプ役がなくなるとは困ります。鳥羽市にとって1人の議員は必要であり、大都市、多人口の地区だけ優先されるのでは鳥羽市がますます過疎化されてしまう原因となります。</p>				○											
7	鳥羽市	<p>県議選区割り、定数見直しについて</p> <p>私、鳥羽市離島に住みます一漁師として一言意見をいいます。一票の格差で定数の見直しをしなければ、いけないと今国県と流れがかわって来ていますが、我々離島に暮らしている人間として、現在県議一人の鳥羽市であるけど、過疎化が進み、町に人が集中していく、そんな中での一票の格差、一票の格差を盾に南部の定数を削減する。今起こるかも知れない東南海地震、防災の対応どうしたらいいか、連日テレビ新聞等で囁かれている中、我々離島に住む一人として鳥羽の定数が削減された場合非常時に県国に迅速に要望しても対応していただけるのか、不安であります。市町村合併で市町議は首を切られた。切られた市町議の地区の話も参考にしながら問題点をもう一度追及して頂きたい。若者が町に出ていく、僻地は年々人口が減っていく。一票の格差が又南部の定数削減になってしまいます。イタチごっこだと思います。</p>	○			○											
8	菟野町	<p>「三重県議会議員の選挙区及び定数の見直し(中間案)」に対して意見を申し述べます。</p> <p>議員定数を論じる時に、人口による一票の格差が問題にされますが、人口集中が進んでいる地域は議員定数が増加していき、逆に人口減少が進んでいる地域は議員定数がどんどん減っていきます。このことは都市への人口集中の流れをさらに加速化させ、同時に山村地域の過疎化をさらに助長することに繋がります。国土の均衡ある発展や国土保全、国土防衛の意味からも望ましい方向とは思えません。よって、議員定数を算定する時に、議員1人が背負うことになるエリア面積を補正係数として加味するなどの方策はとれないものでしょうか。また、議員定数の問題は三重県だけの問題ではないので、全国レベルで議員定数の算定方法の検討が進むように、三重県議会から全国に向けて提案・発信することはできないものでしょうか。</p>							○								
9	鳥羽市	<ul style="list-style-type: none"> ・亀山地区を増やす意見はないのか？ ・議員総数は、増やすことはできないと思うが、減る地区があれば増える地区があってもいいのではないのか？ ・減らすだけの考えはおかしい。 ・1人区というのは、なるべく少なくした方が良い。 ・三重県にとって、必要な(適正な)議員数は何人か？その根拠は？ <p>調査特別委員会のメンバーは、そういう考えをもっているのか？</p>					○			○							
10	鳥羽市	<p>鳥羽市の人口は少なくなって来ているのは事実ですが、離島を抱えております。定数を鳥羽市、志摩市で2人になると有権者数の絶対的に多い志摩市で2人になる確立が必ず高くなると思います。鳥羽市においては、陸続きの地区では考えられない離島の人たちの苦勞も有り、その状況をみじかくみ取り県に対して働きかけをしていただけるためにも1人の県議は必要だと思います。</p>				○											

	市町名	ご意見	分類項目											
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
11	鳥羽市	<p>今回の見直し案について、いくつかの問題点を指摘します。</p> <p>先ず県議会議員は国政の議員と違いそれぞれの地域の問題点を、議会に反映させるという役割があります。特にこの見直し案で南部の定数が軒並み「1」になっていることから、人口比率の兼ね合いかと思いますが、なにも議員の仕事は人の問題だけではなく、自然の状態(山、海、川、動物)を広い範囲で見なければいけません。それを1人で見ることができるでしょうか？またその1人が65歳以上ならなおさら、立候補に際して年齢制限を設けますか？</p> <p>特に自分が鳥羽に住んでいることから、今回の案でいくと人口の比率から2人が志摩市から出る確率が高く、そうなると有人の島を4つかかえる鳥羽として死活問題となるのは、火を見るよりあきらかです。議員により高い質を求めるか、全体をくまなく回る取り決めをしてもらうか。(前者は今の状態ではむり)</p> <p>もちろん県の抱える問題点はたくさんあります。ただ南部特有の問題点もたくさんあります。</p> <p>「人口減少」「高齢化」「産業の衰退」「跡継ぎ問題」「鳥獣被害」「自然状態の悪化」何よりも地震によりもろに受けるであろう「津波対策」</p> <p>上記問題点と、私が一番不満に思うのは、この意見書をFAXで出すかメールで出すか、高齢者が多いなかFAXで出すにしても、鳥羽ではその用紙を手に入れることが、容易でない、不公平です。またこれを出してしまってから、改めて練り直しますができるのか、とても疑問です。</p> <p>何のための削減ですか？議員報酬の削減でも良かったのでは？</p>				○		○						○

	市町名	ご意見	分類項目															
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12				
12	津市	今回の見直し案が適用されるのは2019年の選挙からとなっています。今から5年後で時間的に猶予があり、広く多様な意見を取り入れるためにも、選挙区割りや定数は2015年に実施される予定の国勢調査の結果も考慮してみてもどうかと考えます。											○					
13	明和町	我が国は、一貫して物事の効率化と経済の伸びを追いかけ、それなりに国民の生活を豊かにする効果を上げてきた。しかし、いつまでも経済成長率が伸び続けるわけではなく、すでに我が国は、成熟化社会に突入してきている。 ものが何不自由なく手に入り、新しいものを次々と追いかける。それが真の豊かさとは言えない。そういう時代は終わろうとしている。真の豊かさとは、有限の資源を大切に、自然と共生しながら、お互いいたわり、いつくしみながら生きていくことではないだろうか。そういうことに価値観を持つ人々が今後増えてくると思う。 そういう時代背景の中、県政を担う県議会議員の数を、単なる人口割りで定数を決めて良いものだろうか。もしそうなれば、人口の多い北勢地域の議員数が多くなり、政策が賛成多数で決する今の制度では、町の人々の意見が通り、効率の悪い田舎(農林水産業等)の施策は通りにくくなるのではないだろうか。 また、今回数の論理で、議員定数を減らせば、今後も人口減がさらに進む中南勢・東紀州地域においては、何年かすれば、また一票の格差が出てきて、同じ数の論理でますます議員の数が減ってくるのではないだろうか。 このため、単なる1票当たりの人口割りだけでなく、地域の面積(自然の多さ)や県庁への到達時間と人口との積での補正を行う等地域性を考慮すべきと考える。単なる数字だけでなく温かみのある県政、県議会を期待する。																
14	玉城町	選挙区は鳥羽市と志摩市の合区以外、現状と変わらず、定数を県南部で全て削減が行われる案となっている。この結果、松阪市以北(県北、中部)で36人、多気郡以南(県南部)で9人の議員配置で、4:1の比率となり、県南部活性化の動きが停滞するのではないかと不安が生じる。なお、定数1人区が4区増えることから住民の意向吸い上げの片寄りあるいは、少数意見の切り捨てが顕著となる傾向は明白。政治面での住民サービスや、生活基盤の弱体化を誘発しないよう、柔軟な選挙区の再編を検討し、1人区を極力抑制する方向での改定を望む。	○						○									
15	鳥羽市	一票の格差は定数削減の為の一つの手段かも知れませんが、鳥羽の離島で生活している私達にとっては何んでも(役所の所用、買物、その他の雑用)鳥羽に出でなければなりません。特に医療の面では大変な格差を感じております。この度、鳥羽選挙区も削減の対象となっておりますが、地方切り捨ての最たる物です。僻地の声が届かなくなる様に思えて大変危惧しております。三重の離島で命を掛けて漁業(漁師)をしております。数少ない漁業(第一次産業)に従事している若者の為にも鳥羽市の定数削減には大反対です、どうか人情ある政治(議会運営)をお願い致します。																
16	鳥羽市	議員定数は、一概に人口だけをものさしにするのではなく、県政への政策、事業に民意が的確に反映されてこそ、健全な自治が成り立つものと思われれます。特に、産業的にも偏りのある三重県では、南北の格差が大きく、県政の課題は、南部にこそあります。よって、鳥羽市民のひとりとして、これまでどおり、単独選挙区を存続していただくよう要望いたします。	○															

	市町名	ご意見	分類項目												
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
17	鳥羽市	<p>反対です(理由)</p> <p>①南北の格差が余計に拡大する。</p> <p>②人口の減少と働く場所が少ないのでどうしても行政の力が必要である。</p> <p>③鳥羽市は複雑な地形であり離島行政もある。今後予想されている東南海地震、津波対策には強大な行政力が必要である。</p> <p>④議員削減の予定を見ると南部の方面ばかりで公平な民主主義の様に見えるが弱者をいじめる不公平さの表われにしか思えない。</p> <p>⑤議員削減は、予算等の金の流れが悪く切り捨てられる気がする。議員の多い所ほど道路や設備が良い。</p> <p>⑥民主主義の定義から見れば削減の道理はわからんではないが、政治とは弱者を助けたり光の届かない所、痛い所に手当するのが本当の政治だと思っています。</p>	○			○									
18	鳥羽市	<p>私達離島住民は県の仕事にかんしても議員が有れば話しも出来る。定数見直しとなれば、だれに話せば良いか、離島住民はこの先県議員がなくなる用な事があると県の道路、港の工事にもこまる事となります。鳥羽に1人の県議をのこして下さい。</p>				○									
19	四日市市	<p>三重県議会議員の皆さまに於かれましては、常日頃より県民の声を県政に届け、適切に反映して頂いておりますこと、改めて感謝申し上げます。</p> <p>さて、今回の「三重県議会議員の選挙区および定数の見直し(中間案)」に対する意見募集(パブリックコメント)に際し、県内で働く一人として意見をさせて頂きま</p> <p>す。</p> <p>15回にわたる「選挙区調査特別委員会」での議論に於いて、「一票の格差の是正を基本に、定数の削減や選挙区の見直しの検討を行う」ことを委員会の合意事項とし、さらには一人区については、県民の多様な民意を的確に反映するためには、できる限り議員は複数とすべきであるとの共通認識が示されました。</p> <p>しかし、中間案において、総定数の削減(6人減)につきましては一定の評価ができますが、合区による区域面積論や、一人区の増加、過疎化や離島の地域課題など、委員会の合意事項である“一票の格差の是正”、“複数定数への認識”に向けた議論とは言えず、県民には理解しづらい内容となっています。</p> <p>見直し対象である県南部は、人口減少による過疎化の進展や離島の存在、それぞれが広大な区域面積を有するなど、県南部地域に住む県民の意見反映が難しいことは理解できますが、電子機械の導入(FAXやTV電話の無償貸与など)やIT活用(インターネット)など、災害時の安否確認を含めて様々な方面からの検討で効果を発揮できるものと考えます。</p> <p>つきましては、本見直しは平成27年5月1日以降の一般選挙から適用するとしており、県民への十分な周知と理解、ならびに平成26年(2015年)4月の統一地方選挙に於ける新人議員を含めて“一票の格差の是正”、“複数定数への認識”に向けた建設的・革新的な議論を改めてすべきと考えます。</p>					○			○					
20	朝日町	<p>今回の改正案では新たな1人区が4つもできていますが、広い面積の選挙区に議員が1人では県民の十分な意見反映がなされるとは思えません。選挙区及び定数の見直しが必要ならば法に則り合区をして(例えば多気郡と松阪市を合区して6から5とするとか度会郡と伊勢市を合区して6から5とするなどして)民意をしっかりと反映させるべきです。また、今回県南部を中心に議員定数減がされていますが、これは南部を活性化させようとする県政の方向と大変矛盾するものではないでしょうか。今後「三重県議会議員の選挙区及び定数の見直し」について慎重な討議がされることを望みます。</p>	○				○								

	市町名	ご意見	分類項目																
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12					
21	鳥羽市	中間案では人口割だけが中心ですが、北勢に議員が集中しすぎると思います。南勢地区が増々衰退し議員数ゼロになる日も遠くはないと思う。それで三重県がよくなる言う事は絶対はないと思います。人口の少ない所に人が集まるようにして格差の是正ができないのでしょうか。	○																
22	津市	<p>ここ久しく日本全体で国家地方公務員をはじめ知事や市町長は、財政難の中給与を自主的に削減したりとか、また定数も減らしていることは広く報道され認知もされています。また平成の合併に伴って特に市町の支所を介して公私の所用をするときなど、職員数がやはり減っているなというのを私自身よく実感します。よく全国各地津々浦々の議会でも、外部の委員会で議員の定員であったり報酬の適正額の検討などがされているのも見聞しますが、それで出た結論の数や額が適正かどうかなど、議員自身もわからないのではないですか。まして、われわれ市民にはまったくわからないことでもあります。ただひとついえるのは、世の中全体、民間企業はもちろんのこと、公務員、公職の世界も人を減らし、給与を減らし、ということ苦しければ理屈めきに行い、またたとえ順調であっても、失われた20年を20年で終わらせたいと願う中であって、経費を最小限に切り詰め効率を高めかつ質の確保をめざすということがスタンダードの当然のことになっている、このような社会の動きの中で、都道府県議会、市町村議会は蚊帳の外というか、エアポケットになっているとつよく実感します。今回の三重県議会の削減案は、「結局何も決めていないに等しい、自己保身と責任回避によって仕立て上げられた、6年後実施に何の保証もない、県民を舐めきった決定」という他ないと考えます。私の子供の小学校のクラス会での話し合いの方が、よほど責任のある結論を出しています。6年後の、次のまた次の選挙の時など、県民誰もが忘れていくことをあえて狙って設定したとしか思いようがありません。議員自らが、あのかのときの決定には瑕疵があった、前提が違っていた、とか言い出すのではないですか?6名減も、当初の2名減では収まらないから仕方なしに出した、「6年後にしますが、それでもこれだけ減らすのを増やしましたから」という、何の根拠もない、取ってつけて急に出してきた、自分たちの過去の話し合いの積み重ねを無にしてまでも、先へ先へ、なんとしても先へ延ばせ、という保身のみが働いた結果の産物にしか過ぎないものです。</p> <p>朝三暮四ということばがありますが、県民を知恵の及ばないサルだとも思っているのか、朝三暮四は一日で与える餌の数は少なくとも同じであることは保証されていますが、この案は、その保証すらもなく、期限に至っては、一日どころか、そんな約束誰もが忘れた頃にやってくるという、ふざけ切ったものです。保身のためには何のプライドもない、所詮このパブリックコメントでどんな意見が来ようが、決めるのは議員の俺たち、とばかり形振り構わずに強行突破を図ろうとしているのが見え見えます。三重県議会たとえ45名になったとしても多すぎです。本日は津市議会選挙の日ですが、津市議36名も多すぎです。ただ、市や町は、合併を経て全体の議員数は減っているし、より地域に密着するという視点ではまだ納得の仕様もありますが、県議は間違いなく45名も要りません。まして、それが保証されたものでもなく、加えてあろうことか6年後とは。いい歳したオッサン、オバハンが本気で話し合ったとは普通に考えて思えない、しかしこれが現実とは、選出した側の県民として、恥ずかしくすら感じる現状の三重県議会としか言いようがありません。</p>																	

	市町名	ご意見	分類項目														
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
23	鳥羽市	人口の少ない地域の声を無視するような事はやめて下さい。鳥羽の離島に住む者です。鳥羽は離島の声を無視する事はできません。絶対に1人は確保しなければならない。				○											
24	鳥羽市	鳥羽市は、有人離島が4島(神島・答志島・菅島・坂手島)あり、現在もその島々に約4,000人が生活している。島への公共交通機関は、市営の定期船だけで日常生活の困難さは、三重県内の他の市町とは比較できない。観光や水産業などの産業面だけでなく、教育や福祉など、どの分野をとっても特別な地域である。よって、鳥羽市の状況を理解し、三重県議会(県政)へ伝えるためにも、鳥羽市選挙区の現状維持と議員定数1人は最低限の条件である。以上のことから、この中間案に反対する。各市単位では最低1名の議員確保は必要と考えます。				○											
25	鳥羽市	議員定数は人口だけでなく、面積や離島、海域など、地域特性に十分配慮すべきであり、画一的な選挙区の合区や定数削減は認められない。住民の声を三重県議会に届けるためにも定数削減に反対する。				○	○										
26	鳥羽市	意見なし。															○
27	鳥羽市	意見なし。															○
28	鳥羽市	一人一人の一票の価値は同じであるべきであります。一票の格差の是正に反対する理由はありません。言いたいのは、一票の格差の是正は図るべきだが、地域の格差の是正はそれ以上に話題にのぼるべきだと思います。離島を抱えるが故に競争から遠ざけられるような鳥羽市は人口が少ないから合区となればさらに議員0となり、不利の上乗せとなるように思うので、合区はよくないと思い、見直しの特例を求めます。				○											
29	鳥羽市	鳥羽市は伊勢志摩の玄関口として非常に重要な位置にある。観光はもちろん美しい海、美しい島々を守っていかなければならない。鳥羽は人口的には21,000人程度であるが昼間の流動人口は相当な数に達する。その意味から鳥羽としては絶対県に対して物が言える代表が必要であると思います。何でも合理化されれば良いというのは考えさせられる。				○											
30	鳥羽市	鳥羽市の市域(面積)は大きくないが、離島航路などの必要な海域を加えると大きな面積となる。また、人口面においても全体の人口は約21,000人と少数であるが、交流人口を加えると、人口規模以上の体制づくりを考えていく必要がある地域である。議員定数は人口だけでなく、面積や離島、海域など、地域特性に十分配慮すべきであり、画一的な選挙区の合区や定数削減は認められない。以上のことから、この中間案に反対する。				○											
31	鳥羽市	鳥羽市の市域(面積)は大きくないが、離島航路などの必要な海域を加えると大きな面積となる。また、人口面においても全体の人口は約21,000人と少数であるが、交流人口を加えると、人口規模以上の体制づくりを考えていく必要がある地域である。議員定数は人口だけでなく、面積や離島、海域など、地域特性に十分配慮すべきであり、画一的な選挙区の合区や定数削減は認められない。以上のことから、この中間案に反対する。				○											
32	鳥羽市	鳥羽市は、有人離島が4島(神島・答志島・菅島・坂手島)あり、現在もその島々に約4,000人が生活している。島への公共交通機関は、市営の定期船だけで日常生活の困難さは、三重県内の他の市町とは比較できない。観光や水産業などの産業面だけでなく、教育や福祉など、どの分野をとっても特別な地域である。よって、鳥羽市の状況を理解し、三重県議会(県政)へ伝えるためにも、鳥羽市選挙区の現状維持と議員定数1人は最低限の条件である。以上のことから、この中間案に反対する。				○											

	市町名	ご意見	分類項目												
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
33	鳥羽市	鳥羽市は、有人離島が4島(神島・答志島・菅島・坂手島)あり、現在もその島々に約4,000人が生活している。島への公共交通機関は、市営の定期船だけで日常生活の困難さは、三重県内の他の市町とは比較できない。観光や水産業などの産業面だけでなく、教育や福祉など、どの分野をとっても特別な地域である。よって、鳥羽市の状況を理解し、三重県議会(県政)へ伝えるためにも、鳥羽市選挙区の現状維持と議員定数1人は最低限の条件である。以上のことから、この中間案に反対する。				○									
34	鳥羽市	鳥羽市は、有人離島が4島(神島・答志島・菅島・坂手島)あり、現在もその島々に約4,000人が生活している。島への公共交通機関は、市営の定期船だけで日常生活の困難さは、三重県内の他の市町とは比較できない。観光や水産業などの産業面だけでなく、教育や福祉など、どの分野をとっても特別な地域である。よって、鳥羽市の状況を理解し、三重県議会(県政)へ伝えるためにも、鳥羽市選挙区の現状維持と議員定数1人は最低限の条件である。以上のことから、この中間案に反対する。				○									
35	鳥羽市	議員定数は人口だけでなく、面積や離島、海域など、地域特性に十分配慮すべきであり、画一的な選挙区の合区や定数削減は認められない。議員定数削減ありきのこの中間案に反対する。				○		○							
36	鳥羽市	選挙区の合区については、鳥羽市と志摩市は地形的には似ているが、生活・文化・福祉・教育などの考え方が違い、経済的なつながりも薄いため、選挙区の合区に反対する。議員定数の削減においても、地域の実情や住民の声を三重県議会(県政)に届けるためには、鳥羽市選挙区1人と志摩市選挙区2人は必要であることから、定数の削減にも反対する。				○									
37	鳥羽市	鳥羽市選挙区と志摩市選挙区の合区及び議員定数の削減に反対する。議員の定数削減ありきでなく、基準となっている都市部の選挙区(亀山や鈴鹿)の定数を増やす選択も議論すべきである。以上のことから、この中間案に反対する。				○			○						
38	鳥羽市	鳥羽市の市域(面積)は大きくないが、離島航路などの必要な海域を加えると大きな面積となる。また、人口面においても全体の人口は約21,000人と少数であるが、交流人口を加えると、人口規模以上の体制づくりを考えていく必要がある地域である。議員定数は人口だけでなく、面積や離島、海域など、地域特性に十分配慮すべきであり、画一的な選挙区の合区や定数削減は認められない。以上のことから、この中間案に反対する。				○									
39	鳥羽市	議員定数を人口で決めてどうするのか！人口が多くても、選挙に無関心な市に議員が多くてもダメ！第一次産業の我らの首をしめるのか。弱い者いじめはやめよ！弱い人の為を考えるのが大切なのではないのか。東南海地震がさげられる中、議員がいなくてどうして県に伝えるのだ！				○									○
40	鳥羽市	議員定数の話はどこから出た事なのか、県民の意見ではなく県議会の意見の様に思います。よく国会の審議で国民不在と言われますが、県民不在の審議ではないでしょうか。中間案を出す前はともかく、話し合い(審議)をする前にせめて地元の市町村の役員や自治会に意見を聞くべきではないでしょうか。中間案が出ましたが、私は南部地域から6名も議員削減をすることは、知事の南部に光を当てるとの事に反対している様に思います。そして、次々回の改選から実施などとは、途中で辞める議員も想定される事を思えば、自分達の事を決めるのに何故次回からなのか、理解できません。もっと県民主体の議論にしてください。	○										○	○	
41	鳥羽市	県議会の定数見直し 鳥羽市、志摩市合同の定数3人について反対します。 理由 ①県の南地区についての地域性を根本的に無視している事。 ②同じ鳥羽市についても離島4島をかかえ歴史的に見てもそれぞれ国として村落を形成している事。 ③それぞれの地域についても所得、産業等、差が大きい ④部落の民意の差が大きい 等 高所から景色を見る様な決め方では本当の民意を伺う事は出来ない特殊性がある。絶対反対する。	○			○									
42	鳥羽市	鳥羽市の市域(面積)は大きくないが、離島航路などの必要な海域を加えると大きな面積となる。また、人口面においても全体の人口は約21,000人と少数であるが、交流人口を加えると、人口規模以上の体制づくりを考えていく必要がある地域である。議員定数は人口だけでなく、面積や離島、海域など、地域特性に十分配慮すべきであり、画一的な選挙区の合区や定数削減は認められない。以上のことから、この中間案に反対する。				○									
43	鳥羽市	鳥羽市の市域(面積)は大きくないが、離島航路などの必要な海域を加えると大きな面積となる。また、人口面においても全体の人口は約21,000人と少数であるが、交流人口を加えると、人口規模以上の体制づくりを考えていく必要がある地域である。議員定数は人口だけでなく、面積や離島、海域など、地域特性に十分配慮すべきであり、画一的な選挙区の合区や定数削減は認められない。以上のことから、この中間案に反対する。				○									
44	伊賀市	選挙区の見直しについては、一票の是正を基本に地域区割を一人区対しての区割を平等に一票の格差に人員を整えて格差是正を図ること。人口の減少による過疎化の進展や離島の存在、地域の課題が山積の多い場合は、一票の格差是正が有る場合でも県民の多様な民意を的確に反映の為には、議員は複数でも良いと思います。十分に県民に多様な民意を的確に反映できるならば、議員の定数を削減しても良い。しかし議員削減は当然と思いますが、県民の多様な民意を的確に反映していくことが重要と思います。						○	○						
45	鳥羽市	鳥羽市と志摩市の選挙区の合区に反対します。なぜならば、鳥羽市は離島を含む行政の特殊な地域だからです。仮に合区で定員2名となり、2名の議員が志摩市から選出された場合を考えると果して鳥羽市に目が届くでしょうか。県会議員は県民のことを考えるのは当たり前ですが、これまでの選挙区から選ばれた議員が一番近い選挙区に目を配り、問題を見つけて解決に力を注ぐ。各県議がそのような取組で三重県全体が良くなっていくと考えられます。今回の一票の格差の是正を基本に考えられた案ですが、現実を見据えた場合、鳥羽市と志摩市の合区には反対します。				○									

	市町名	ご意見	分類項目														
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
46	松阪市	今回のパブリックコメントを募集されている三重県議会議員の選挙区及び定数の見直し(中間案)の内容は、県議会が特別委員会を昨年1月に設置してから15回の会議で議論された結果ですが、議会改革に積極的に取り組んでいる三重県議会の検討結果としては不十分な内容となっています。中間案の内容は、定数を削減している点は前向きに評価できますが、多様な県民の意見を、より適切に県議会へ反映できるようにするためには、選挙でのいわゆる「死票」を減らすべきであるにもかかわらず、定数1の選挙区を現行の2選挙区から6選挙区に増やしているおり、改めて定数1の選挙区を削減する方向で再考すべきです。また、今回の見直し案が適用されるのは、2019年の選挙からとなっていますが、それならば、2015年の県議選で初めて当選した議員の意見を十分聴くとともに、選挙区割りや定数は2015年に実施される予定の国勢調査の結果も反映すべきと考えます。					○					○					
47	鳥羽市	人口の減少化に伴ない選挙区の合併そして議員数の削減、そんな単純な割り切り手法で物事仕切ってしまうてよろしいのですか？ご承知のように南勢地区はまだまだインフラ関係が充分でなく、なおかつ鳥羽市は離島が多く経済的にも交通的にも利便性を欠いております。名古屋に近い北勢部には行き届いた行政の進展がありますが南部はまだまだおくれしております。それが現状なのに、合併して議員数を減少するであれば益々この地区は立ち遅れていくのは目に見えております。現状ばかりを見て判断してないでもっとその地区の将来を見ずえて計画性のある行政をお願いします。				○											
48	鈴鹿市	定数の削減は行財政改革の観点からも大変重要だと思っておりますが、中間案の内容をみると総議員定数の削減が主要な目的になっているように見えます。広大な面積と各地域での特色がある三重県の行財政サービスが効率的に行えているか監視する役割や地域の声を県政へ届ける役割がある県議会としては、総議員定数の削減数の圧縮、選挙区割りの大幅な見直しによる一票の格差是正も再度検討すべきと考えます。また、今回の見直しは2019年からの適用となっていますが、次回2015年の県議会選挙を経て当選した議員の意見を十分に聞く必要があると思っております。								○		○					
49	鳥羽市	鳥羽市の市域(面積)は大きくないが、離島航路などの必要な海域を加えると大きな面積となる。また、人口面においても全体の人口は約21,000人と少数であるが、交流人口を加えると、人口規模以上の体制づくりを考えていく必要がある地域である。議員定数は人口だけでなく、面積や離島、海域など、地域特性に十分配慮すべきであり、画一的な選挙区の合区や定数削減は認められない。以上のことから、この中間案に反対する。				○											
50	鳥羽市	鳥羽市は、有人離島が4島(神島・答志島・菅島・坂手島)あり、現在もその島々に約4,000人が生活している。島への公共交通機関は、市営の定期船だけで日常生活の困難さは、三重県内の他の市町とは比較できない。観光や水産業などの産業面だけでなく、教育や福祉など、どの分野をとっても特別な地域である。よって、鳥羽市の状況を理解し、三重県議会(県政)へ伝えるためにも、鳥羽市選挙区の現状維持と議員定数1人は最低限の条件である。以上のことから、この中間案に反対する。				○											
51	鳥羽市	議員定数が北部そのまま南部削減。しかも一票の格差以上の定数減は県民、特に南部地域の県民の声が届きにくくなるのではと心配です。また、南部を置き去りにする行政をされるのかと、とても残念です。特に鳥羽に対する仕打ちは厳しいものがあると言わざるを得ません。もう一度公聴会を数多く開いて意見を広く拾って欲しいです。	○			○									○		
52	鳥羽市	合区になれば鳥羽市の人口から鳥羽市の当確が不利になると思っています。鳥羽市は離島があり他の市町とは比較できない市民の意見を県政に伝えるため、鳥羽市の代表が必要と思っております。				○											
53	鳥羽市	鳥羽市の市域(面積)は大きくないが、離島航路などの必要な海域を加えると大きな面積となる。また、人口面においても全体の人口は約21,000人と少数であるが、交流人口を加えると、人口規模以上の体制づくりを考えていく必要がある地域である。議員定数は人口だけでなく、面積や離島、海域など、地域特性に十分配慮すべきであり、画一的な選挙区の合区や定数削減は認められない。以上のことから、この中間案に反対する。				○											
54	鳥羽市	鳥羽市選挙区と志摩市選挙区の合区及び議員定数の削減に反対する。議員の定数削減ありきでなく、基準となっている都市部の選挙区(亀山や鈴鹿)の定数を増やす選択肢も議論すべきである。以上のことから、この中間案に反対する。				○					○						
55	鳥羽市	特別委員会は、何を目的にどんな数値を目標に1年も議論してきたのですか。党利党略のもと、大会派が少数会派にかきまわされた構図です。こんな過程でまとめられた中間案など何の価値もありません。県全体を見ずえたまもな議論をして下さい。皆さんは、どれだけ伊勢志摩のことをご存じの上で議論されたのか、わかりませんが、鳥羽は鳥羽、志摩は志摩。合区はありえないと思っております。				○											
56	鳥羽市	鳥羽市は、有人離島が4島(神島・答志島・菅島・坂手島)あり、現在もその島々に約4,000人が生活している。島への公共交通機関は、市営の定期船だけで日常生活の困難さは、三重県内の他の市町とは比較できない。観光や水産業などの産業面だけでなく、教育や福祉など、どの分野をとっても特別な地域である。よって、鳥羽市の状況を理解し、三重県議会(県政)へ伝えるためにも、鳥羽市選挙区の現状維持と議員定数1人は最低限の条件である。以上のことから、この中間案に反対する。 ※北勢地区も減らすべきだ。				○											
57	鳥羽市	鳥羽市には、離島が4島あり、約4,000人の人々が生活をしており、島への公共交通機関は、市営の定期船だけで日常生活の困難さは、県内の他の市町とは比較できない。観光や水産業などの産業面だけでなく、教育や福祉など、どの分野をとっても特別な地域である。また、南鳥羽地域においても同様の事が言える。よって、鳥羽市の状況を理解し、県議会へ状況を伝えるためにも、鳥羽市選挙区の現状維持と議員定数1人は最低限の条件である。以上の事から、中間案に反対する。				○											

	市町名	ご意見	分類項目															
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12				
69	伊勢市	この見直し案は、1票の格差の是正にこだわりすぎて、県南部を切り捨てるものとしか考えられません。議員1人で400km ² 以上の面積を抱えて、地域の意見を反映できるのでしょうか？南北に長い三重県において、多様な県民の意見を反映させるためには機械的な1票の格差の是正ではなく、面積要件も加味して1人区(=死票)の増加を極力避けるようすべきだと思います。また、どうして平成27年4月予定の選挙から適用しないのでしょうか？今の議員の損得で考えるべきではないと思います。実質的に平成31年の選挙からの適用であれば、もっと県民の声を聞いて、時間をかけて検討すべきだと思います。	○					○				○	○					
70	松阪市	今回の、選挙区および定数の見直し方については、明らかに特定の会派の意向が大きく働いているとしか考えられません。三重県は南北に長く、また地域によってさまざまな課題があります。県政は国政と違い人口だけで割り振ると人口が減っている県民の声が届かなくなります。一票の格差ではなく、そこに住む県民の重みを考えるべきです。このような見直しだと、ますます南北格差が広がるだけです。また、北部は地域的にも財政的にも豊かであり、それほど県下一体となった課題は少ないはずで、また1人区が増えると、選挙のたびに県議会の方針があっちへいったりこっちへいったりして、中長期的なビジョンが狂います。均等割として1選挙区2名として、あとは人口割等で調整すれば良いのではないのでしょうか。	○					○										
71	鳥羽市	今回の定数等の見直しについて、定数削減については一定評価できるが、定数1の選挙区を2選挙区から6選挙区に増やしてしまう点では、死に票を増やしてしまうことになる。多様な県民の意見をより適切に県議会に届け、県民のための政治を行うためには、再考すべきである。また、今回の見直し案が、適用されるのは、2020年の選挙からとなっているが、2016年の県議選で当選した議員の意見も十分聴く必要があり、特に初当選した議員に対しては、これらに対して発言する機会を十分にとる必要があると考えます。さらに、2017年に実施される国勢調査による選挙区割りや定数についての結果もしっかりと反映させる必要があるであろう。三重県は、これまで議会改革先進県として積極的に改革に取り組んできていることは、大変誇りである。にもかかわらず、今回の検討結果は不十分な内容であるように思われる。以上、意見を反映していただきますようよろしくお願いいたします。						○				○						
72	松阪市	今回の見直し案の実施については、慎重に進められたいと考えています。そもそも論に戻る時期ではないのでしょうか、私は「一票の格差の是正」にはかねがね疑問を感じています。人口で単純に考えるのは、平等なようで実は不平等な面もあると考えるからです。ご承知のとおり三重県は豊かな地域で、それぞれの地域がそれぞれの生活や文化を大切に、誇りをもって暮らしています。人口構成は当然一律ではなく、高齢者が多い地域、いわゆる働き盛りの人が多い地域、子供の多い地域とさまざまだと思います。有権者数といっても、年代別の構成数としてその方々の就労状況は一律ではないと思います。そのような中で、数字で単純に判断してよいのだろうかという疑問を持っているところです。また、一人区というのは、さまざまな意見を収集するには不相当だと考えます。とりわけ郡部は、生活や文化の異なる町の集まりです。以前から一人区だった選挙区は、比較的似通った生活や文化であるのに対し、今回新たに一人区が提案されている選挙区は、互いの町の生活や文化を尊重しながらも、独自性をもって暮らしているといえます。実に多様な意見のなかで、それでも一定の方向はもっていかねばなりません。一人が代表して意見を収集し反映させようとするのは限界があると思います。以上のことから、今後の人口の増減、年代別構成数の変化、就労状況なども考慮できるよう、慎重に検討を重ねながら進めていただきたいと思います。						○				○						
73	津市	一票の格差の是正するうえで重要なことは、県民の多様な意向をいかに県政に反映できるか、そのためにどのような手法で格差を是正するかを考えるべきであると考えます。知事選挙が一人だけを選ぶ選挙であるのに対して、県政推進の両輪の一つである県議会の議員を選ぶ選挙は、より多様な県民の意向を反映できるよう配慮する必要があります。衆院選挙は小選挙区をベースとしています。しかし、今回パブリックコメントに付された中間案は、一票の格差の是正を大前提に、選挙区の見直し、定数削減などを議論した結果として取りまとめたようですが、現在2つの選挙区にとどまっている定数1の選挙区を、6選挙区に増加させることは、県民一人ひとりの意向をできるだけ県政に的確に反映することが求められている県議会としては、行ってはならない一票の格差是正の手法であるといわざるをえません。そのため、今回の中間案は、まずこの点を見直すべきです。さらに、定数が削減される地域は、その多くが伊勢志摩地域と東紀州地域となっていますが、これだけの定数をこの地域だけで一度に削減することも重要な問題と指摘しなければなりません。以上、大きく2点について、再考が必要と考えます。	○					○										
74	不明	今回のパブリックコメントの内容は、県議会が特別委員会を昨年一月に設置してから15回の会議での議論であるが、議会改革先進県として改革にとりくんできた県議会の検討結果としては不十分な内容である。定数見直しは、一定評価できるが、多様な県民の意見を議会へ反映できるようにするために、いわゆる「死に票」を減らすべきであるにもかかわらず、定数1の選挙区を2から6に増やしている点は再考する必要がある。また、今回の見直し案が適用されるのは2020年の選挙からとなっているが、2016年の県議選で初めて当選した議員の意見を十分聴き、選挙区割りや定数は2017年に実施される国勢調査の結果を反映すべきである。						○				○						

	市町名	ご意見	分類項目														
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
75	松阪市	日々のご公務、ご苦労様です。さて、この度の三重県議会選挙区及び定数の見直しにつきまして、僭越ながら、ご意見申し上げます。まず、今回の見直し案では、定数1の「一人区」を、現行の2選挙区から6選挙区に増やすこととなっています。しかし、このことは、多くの県民の意見を県議会に届けるという点から、問題があると思います。次に、今回の見直し案を適用するのは、2020年からとなっています。それなら、拙速に見直し案を決定するのではなく、2016年に初当選した議員さんの意見を、もっとよく聴くべきです。そして、2017年実施予定の「国勢調査」の結果に鑑み、区割り及び定数を、最終的に確定すべきであると考えます。以上、ご検討のほど、よろしくお願い申し上げます。					○				○						
76	鳥羽市	県議の削減には賛成します。ただ人口比率だけで定数を決める事には反対です。ただでさえ三重県は南北格差が大きいと思います。この案でいきますと増々議員数が北に集中して県南部が減少することになります。南部の過疎化の進展や離島の声を見直案では納得できません。本当に困っている南部の声を吸い上げるような、ただ人口比率だけで定数を決めないで下さい。全体のバランスを考えて一考をお願いします。	○														
77	鳥羽市	鳥羽市選挙区(1人)志摩市選挙区(1人)というふうに統合しなくてもよい。鳥羽は離島が多いため離島振興法とかがおろそかになってはいけない。特に答志は若い人たちがまだまだ漁業を目ざして頑張っています。鳥羽から県会議員をなくしてはいけない。				○											
78	鳥羽市	鳥羽市の市域(面積)は大きくないが、離島航路などの必要な海域を加えると大きな面積となる。また、人口面においても全体の人口は約21,000人と少数であるが、交流人口を加えると、人口規模以上の体制づくりを考えていく必要がある地域である。議員定数は人口だけでなく、面積や離島、海域など、地域特性に十分配慮すべきであり、画一的な選挙区の合区や定数削減は認められない。以上のことから、この中間案に反対する。				○											
79	鳥羽市	議員定数は、人口だけでなく、面積や離島、海域など地域特性に十分配慮すべきであり、画一的な選挙区の合区や定数削減は認められない。以上のことから、この中間案に反対する。				○		○									
80	鳥羽市	議員定数は人口だけでなく面積や離島、海域など地域特性に十分配慮すべきであり、人口規模以上の体制づくりを考えていく必要がある地域であると思いますので定数削減は認められない。以上のことから、この中間案に反対する。				○		○									
81	鳥羽市	鳥羽市は、有人離島が4島(神島・答志島・菅島・坂手島)あり、現在もその島々に約4,000人が生活している。島への公共交通機関は、市営の定期船だけで日常生活の困難さは、三重県内の他の市町とは比較できない。観光や水産業などの産業面だけでなく、教育や福祉など、どの分野をとっても特別な地域である。よって、鳥羽市の状況を理解し、三重県議会(県政)へ伝えるためにも、鳥羽市選挙区の現状維持と議員定数1人は最低限の条件である。以上のことから、この中間案に反対する。				○											
82	鳥羽市	議員定数は人口だけでなく、面積や離島、海域など、地域特性に十分配慮すべきであり、画一的な選挙区の合区や定数削減は認められない。議員定数削減ありきのこの中間案に反対する。鳥羽市は北海道の歌志内や福岡県の山田までとはいかないまでも、人口が大きく減少しているところである。上記の2市は旧炭鉱の市(まち)であるが、観光のまちでこれほど少ない例は少ないのではないかと交通機関でも近鉄から見れば午前には大阪(上本町)、名古屋からの特急が本市の手前の伊勢市(宇治山田駅止まり)で切られ、多客期のみ鳥羽まで来ることになっている。伊勢市は10万人を越えている。鳥羽は21,000人しかない。公民館会議が昨夏にあり、監査のために資料(日誌)の提出をもとめられたが・・・現時点でも返却どころか全く何の連絡もない怠慢な話であり腹立だしいものであるが、小さいところならではの存在意義、確保のため定数削減は認めたくない。				○		○									

	市町名	ご意見	分類項目													
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
83	県外	三重県で働くものとして、今回の改正案について、いくつか疑問や危惧を感じます。1点目は、定数減が三重県の南部に集中しているため、県政が三重県の北勢、中勢地区出身の議員によって進められることが大いに考えられ、県全体の民意がしっかりと反映された状況といえません。改善を求めます。続いて、2点目として、南部のいくつかの2人区を1人区にすると、選挙が拮抗した場合は、民意の半分近くが全く反映されないことになり、1点目の中身も重なると、南部の意見は殆ど県政に反映されないことにつながっていきます。例えば、多気郡と松阪市、度会郡と伊勢市など、可能なところは合区にするなど、民意をできるだけ反映したものとなるよう、改善を求めます。最後に3点目として、次々回の選挙より、適用をめざしていると受け取れますが、次回当選した議員の考えは、全く反映されないこととなります。恐らく、27年4月に行われる当選議員の考えを盛り込んだものとなるよう、改善を求めます。以上、よろしくお願いいたします。	○				○				○					
84	御浜町	三重県議会から出された議員定数等の見直しに関する「中間案」は、選挙区の合区や削減等で、定数1の選挙区が6選挙区に増えています。「1票の格差」を是正するために必要とはいえ、国と県ではその事情は異なってきます。特に県南地域は山間部や海岸部が9割近くを占め、過疎化・高齢化が進み、地元で若者が働ける場が少ないなど、課題が山積しています。それぞれの地域の実情や住民の思いを議員が県政に届け、継続して取り組むことができるよう、「中間案」の見直しを強く求めます。					○									
85	伊賀市	今回の見直し案が適用されるのは、2020年の選挙からとなっていますが、もしそうであるならば2016年の県議選で初めて当選された議員の意見を十分きくべきだと思います。また、選挙区割りや定数は、2017年に実施される国勢調査の結果を十分反映すべきだと思います。以上です。									○					
86	鳥羽市	鳥羽市の人口は21,000人弱と小さな市であり、数年後には2万人を切ってしまうと言われていています。定数の見直しで志摩市、鳥羽市で2名となると数の論理で鳥羽市の県議員はいなくなるでしょう。鳥羽市はどんどん見放されていきます。それから、なぜ南部地域だけが減らされるのですか。ますます南北格差が広がります。”私は、定数の見直しは絶対に反対です”	○			○										
87	紀北町	定数の削減や選挙区の見直しを行い、議会もしくは、議員の質の向上を図ることは大変重要です。しかし、今回の中間案を見ても、定数削減があまりにも機械的に行われています。私の住んでいる東紀州に限って言いますと、住民は少ないですが広大な面積と多種多様な地域性を持っています。それなのに数の原理だけで半減されています。選挙区割りの見直しも含めて、定数についても再検討が必要だと考えます。					○	○								

	市町名	ご意見	分類項目													
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
88	松阪市	三重県議会議員の選挙区及び定数の見直し(中間案)を拝見しましたが、特に平成27年5月1日以降の一般選挙から適用するという点について、本当に、がっかりいたしました。次回の選挙で当選した議員が4年の間に条例も変更できるという点から、自らの保身および、先へ先へと先延ばしでできてしまうこの案は、まったくもって意味をなさないものと考えます。また、削減する地域が南部に偏っているのはおかしいと思います。三重の問題の多くは南部にあり、投票率も高い地域でもあります。議会改革をうたっている三重県議会において、この案をどのように考えているのか、理解に困ります。	○									○				
89	津市	消費税8%、10%となる時代、住民にとって生活が非常にきびしくなると思います。なぜなら大企業のための政治が行なわれているからです。企業労働者の約7割が中小企業であり賃金に反映されるとは思えない。全国で1000万人以上が年収200万円以下であります。私は国会議員、県会議員、市会議員定数を見直すべきであると考え。県会議員においては、一票の格差是正により6名の削減を次回選挙から実施すべきである。もしくは、議員報酬を2割削減すべきではないか。										○		○		
90	松阪市	1人区でも良いではないか。議員多すぎる。今回は数人をへらすべし、人口と共に地域の広さも考えるべし。議員さん良心があるならとがめませんか。正実に実行、実践出来ない方は議員をやめていただきたいとねがいます。							○			○				
91	松阪市	・定数の削減に賛成します。・給与は、税金により第三者機関を設置し、来年度予算案提出時に見直す。・選挙区の統合も検討してください。・選挙の意識を変えるためにも投票率を加味して定数考えることも必要ではないでしょうか?・改革をお願いします。														○
92	鳥羽市	鳥羽市は、有人離島が4島(神島・答志島・菅島・坂手島)あり、現在もその島々に約4,000人が生活している。島への公共交通機関は、市営の定期船だけで日常生活の困難さは、三重県内の他の市町とは比較できない。観光や水産業などの産業面だけでなく、教育や福祉など、どの分野をとっても特別な地域である。よって、鳥羽市の状況を理解し、三重県議会(県政)へ伝えるためにも、鳥羽市選挙区の現状維持と議員定数1人は最低限の条件である。以上のことから、この中間案に反対する。				○										
93	鳥羽市	鳥羽市は、有人離島が4島(神島・答志島・菅島・坂手島)あり、現在もその島々に約4,000人が生活している。島への公共交通機関は、市営の定期船だけで日常生活の困難さは、三重県内の他の市町とは比較できない。観光や水産業などの産業面だけでなく、教育や福祉など、どの分野をとっても特別な地域である。よって、鳥羽市の状況を理解し、三重県議会(県政)へ伝えるためにも、鳥羽市選挙区の現状維持と議員定数1人は最低限の条件である。以上のことから、この中間案に反対する。				○										
94	鳥羽市	選挙区の合区については、鳥羽市と志摩市は地形的には似ているが、生活・文化・福祉・教育などの考え方が違い、経済的なつながりも薄いため、選挙区の合区に反対する。議員定数の削減においても、地域の実情や住民の声を三重県議会(県政)に届けるためには、鳥羽市選挙区1人と志摩市選挙区2人は必要であることから、定数の削減にも反対する。ムダの排除等々削減の考え方には考えを同一のものと致しますが、我、鳥羽市の環境は離島をかかえており、志摩市1名、鳥羽市1名としていただきたくお願い申し上げます。				○										

市町名	ご意見	分類項目											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
95 度会町	<p>国政レベルでの選挙民の一票の格差是正、議員歳費の削減施策案の流れに沿い、三重県議会もその改革に着手され、「選挙区調査特別委員会」で論議され始まったことは大いに評価致しますが、今回纏められた中間案に対しまして、絶対納得の出来ない当該地区住民の一人として、箇条的に下記の通り意見を述べさせていただきます。</p> <p>記 1、どちらかと言えば北主南従型と思われる県行政に、より鮮明にその度合いが生じる結果を、生み出す原因を発生するのではと、危惧せずにはおられません。2、一票の格差を最優先に定数配分することは一番簡単な打開策、単純的な策ゆえ、半面大きな歪を発生する原因を生みます。できるなら委員会のメンバーは痛みを被る地域の議員、そうでない議員同数で構成されていれば、もう少し納得し易い案が打ち出されたのではと思われま。今一度、委員会と見直し地域の全県議を一同に会して、発生するであろう問題を徹底究明して頂く必要が有ると思います。3、各選挙区、特に南勢郡部には長年の文化の一つとして、県行政への参政権の行使として又、かけはしとして、限られた複数の県議を育て上げ、疲弊する地域の振興に努めてきた立法府と住民の長年の歴史があり、それを無視した一方的な考えにより切り捨てることは容認しがたいことです。4、県政の下に市町村行政が有り、そしてそれぞれ市町村議会が存在しますが、議員一人に託す選挙民の権利は、市部と町村間には最大10倍程の格差が有る様に、議員へ託す県民一人一人の1票の重さは、より少ない人口ほどより重くなるのが必然的現象となっています。よって県議員の定数配分方法も必ずしも国議員の流れに従う必要はないのでは？5、何れの行政機関も地域の特徴、円滑な立法行政運営に必要な員数として定数を定め、任務遂行されて来られたと思いますが、いったい現在の定数は過剰状態に近く、そのため世の流れに従って削減も仕方なし、県議会運営にも大したデメリットは発生しないとの判断上の県議総意でしょうか？削減地域には到底受け入れがたい程のデメリットが生じます。5、法治国家である以上、先ず国政は全て法に従って運営すべきところ、国会議員の選挙制度に違憲状態の司法判決を受けながら未だに結論を出せない状況が続いております。その渦中、全国有数と評価されて、県民も誇りにしている三重県議会が、住民の意思に反して、先ん出て定数削減をする必要性が有るのでしょうか？(殆どの県民は県議会に対して一票の格差是正、定数削減による経費削減は望んでいないと思います。それよりもより県民の身近な存在、庶民の目線に合った議員活動を望んでおることと推測しております)</p> <p>6、国→県→市→町村と行政機関が地方に及ぶほど、地域の特徴、地域色、長年の歴史文化の存在が大きくなり、全てが同様の法解釈で物事を進めると、大きな混乱を招くことが発生してきます。それを回避するためには、法に許される最大限の拡大解釈方を、英知を絞り考える必要が有ります。7、結論 1) 予知報道によると、近年熊野沖を震源とする大地震発生が予想され、特に大被害を被ることが確実視される県南部地域、そこを住居とする私達住民は今まさに、災害発生に対するインフラ整備の振興と、災害時における県当局と、被災地との太いパイプ役として御世話願う地元選出の県議の定数増員を望みたい時期、それに逆行する今回の削減案は、全く県南部地区住民との目線を何処に合わせられて纏められたのか住民に説明して頂きたく、理解に苦しんでおります。時期が時期です。住民の不安が解消するまで、少なくとも南部地域の議員定数削減、選挙区変更は絶対してはならないことを切望します。2) 1票の格差是正を必要とされるなら、基準値1.0地域に定員1名増するのが得策では？。議員歳費の削減を目標とされるなら、各人が同様に痛みを受ける様、一人当たりの歳費削減に努めて下さい。3) 定数配分の決定は面積比率を十分に取り入れた「人口比率+面積比率分を加味」の方式がベストと思っています。4) 痛みを伴わない議員方々の多数決により、原案を可決する様な理不尽的行為は絶対にしないで下さい。5) 当問題の解決には会派の党議は撤廃し、会派の垣根を超えて、各議員の良識の判断に委ねて論議して下さい。</p>	○						○			○	○	

	市町名	ご意見	分類項目															
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12				
96	志摩市	今回の定数等の見直しについて、定数削減については一定評価できますが、選挙でのいわゆる「死に票」を減らすべきであるにもかかわらず、定数1の選挙区を現行の2選挙区から6選挙区に増やしている点については、再考すべきです。また、今回の見直し案が適用されるのは2020年の選挙からとなっていますが、それならば、2016年の県議選で初めて当選した議員の意見を十分聴くとともに、選挙区割や定数は2017年に実施される国勢調査の結果を反映すべきです。					○					○						
97	多気町	今回の定数見直しについて、定数削減については一定評価できる。1票の格差を是正しようとする点については、評価できるものである。しかし、多様な県民の意見をより適切に県議会へ反映できるようにするためには、定数1の選挙区を現行の2選挙区から6選挙区に増やしてしまう点については、再考すべきである。定数1の選挙区を増やしてしまうことで、多くの民意を反映できなくなってしまう恐れがある。いわゆる「死に票」が増えてしまうことで、自分たちの思いを届けられない有権者が増えてしまうのは必至である。それならば、選挙区割りや定数は2017年に実施される国勢調査の結果を反映することが、民意にのっとった見直しとなるのではないだろうか。再考を要望する。						○					○					
98	鳥羽市	鳥羽市は、有人離島が4島(神島・答志島・菅島・坂手島)あり、現在もその島々に約4,000人が生活している。島への公共交通機関は、市営の定期船だけで日常生活の困難さは、三重県内の他の市町とは比較できない。観光や水産業などの産業面だけでなく、教育や福祉など、どの分野をとっても特別な地域である。よって、鳥羽市の状況を理解し、三重県議会(県政)へ伝えるためにも、鳥羽市選挙区の現状維持と議員定数1人は最低限の条件である。以上のことから、この中間案に反対する。					○											
99	鳥羽市	議員定数は人口だけでなく、面積や離島、海域など、地域特性に十分配慮すべきであり、画一的な選挙区の合区や定数削減は認められない。議員定数の削減ありきのこの中間案に反対する。パブリックコメントとしての個人の意見がどこまで反映されるかが未知数であるし、法的な整備などの問題を乗り越えなくてはならないが、固定された保守的な既存の思考にとらわれていては一見案が纏まった様に見えても必ずモグラ叩きの様に問題点が次々と出てくると思う。そもそも議員定数の是正問題の根本は対人口比率なのか、選挙区の面積に対応させるのかは永遠の課題である。そこで地域の実情を最も知る町内会の連合会長(副も含む)の現役や経験者の中から、ボランティア議員として活躍してもらえないかと云う案(仕組みを変える)である。(選出の方法や任期は別途考える)つまり職業議員を削減し、利害に左右されにくいボランティア議員を投与した構成で経費の削減と地域住民の意見の汲み上げや反映の効率が良くなると思う。ボランティア議員は職業議員と同資格であるが議会出席は日払い日当や交通費、通信費、出張費は実費支払等となり、職業議員の議会運営は基より各種組織、県等の一貫性のある折衝実務や書類の作成など様々な業務と思うが(分担の役割は別途考慮する)経費節減を目指しつつ議員の定数削減に反対する。					○		○								○	
100	鳥羽市	今回の中間案の選挙実施時期を平成27年5月1日以降から適用と判断したことについては、県民を代表して選出された議員の考えとしては問題がある。身を切る思いであれば、次期選挙(平成27年4月)から実施すべきである。一票の格差の是正から定数削減の議論になったと考えるが、選挙区の見直しに該当する鳥羽市民にとっては、検討経過報告にもあるが、人口減少による過疎化の進展や、離島を抱える問題など地域課題は山積しており、今回、志摩市選挙区と合区して定数を3人から2人にする案は、容認できない。議員自ら身を切る思いで今回の議論がでているのであれば、定数削減より、現在の議員報酬の削減及び政務調査費などの削減など、現在の議員一人ひとりが身を切ることが、必要ではないか。三重県の将来を左右する二元代表制における議会議員の役割は大きく、名誉職的、ボランティア精神で、職務を推進すべきである。三重県議会の活動と報酬のあり方については、有識者を入れて議論しているが、更なる議論も必要である。このような報酬の削減、たとえば3分の2に削減を実施することにより、現在の定数は十分に確保出来るのである。結論は、一票の格差から選挙区を見直すことには反対であり議員削減も時期尚早である。更に、現在の全ての議員が身を切る議論(議員報酬、政務調査費の削減など)が必要と考える。					○											○